

地域防犯活動について

西宮市では、市民のみなさまの安全・安心のため、各種団体や自治会等ボランティアの方々が推進されている多様な地域防犯活動を支援しています。この調査結果を、今後の支援施策の参考にしたいと考えています。

問 14 現在お住まいの地域の治安について、どのように感じますか。
また、現在お住まいの地域の治安について、3、4年前はどのように感じていましたか。それぞれについて、あてはまる数字に○をつけてください。

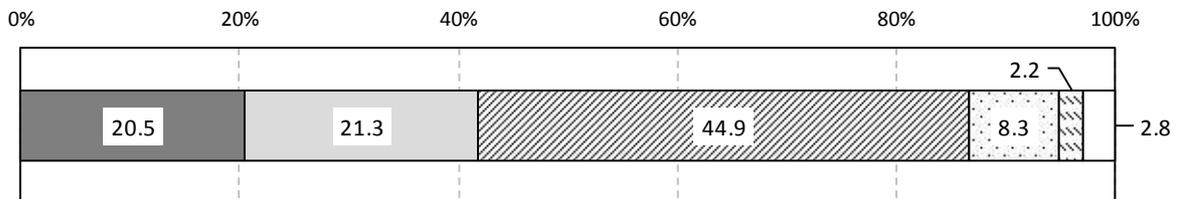
住まいの地域の治安は「普通」以上と感じている人は約 87%。

- ・ 住んでいる地域の現在の治安について、回答者全体では、20.5%が「1」、21.3%が「2」、44.9%が「3」としており、合計で 86.7%が治安は「普通」以上と感じているとしている。
- ・ 3、4年前の治安について、回答者全体では、17.4%が「1」、19.7%が「2」、41.4%が「3」としており、合計で 78.5%が治安は「普通」以上と感じていたとしている。

現在住んでいる地域の治安について

現在

(n=1,798)

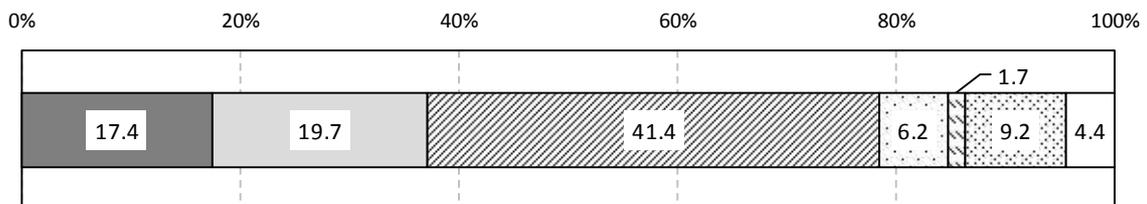


1
 2
 3
 4
 5
 無回答・無効

良い ← 普通 → 悪い

3、4年前

(n=1,798)

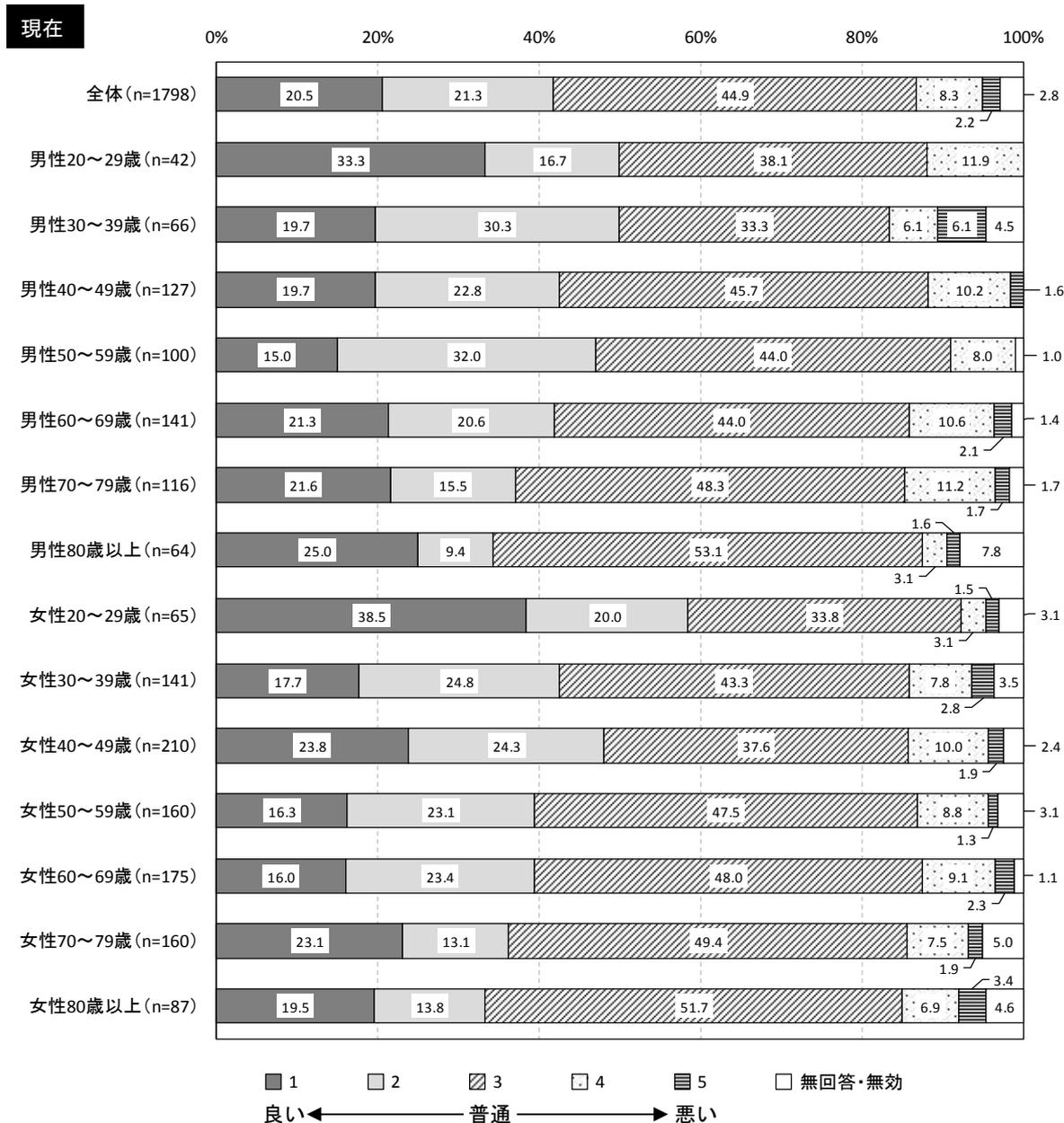


1
 2
 3
 4
 5
 3、4年前は別の地域に住んでいた
 無回答・無効

良い ← 普通 → 悪い

- 現在の治安について、年齢・性別に見る回答の割合は、若い世代において「1」または「2」の「良い」とする割合が高い傾向にあり、その割合が最も高いのは、男性では20～30歳代でともに50.0%、女性では20歳代で58.5%となっている。

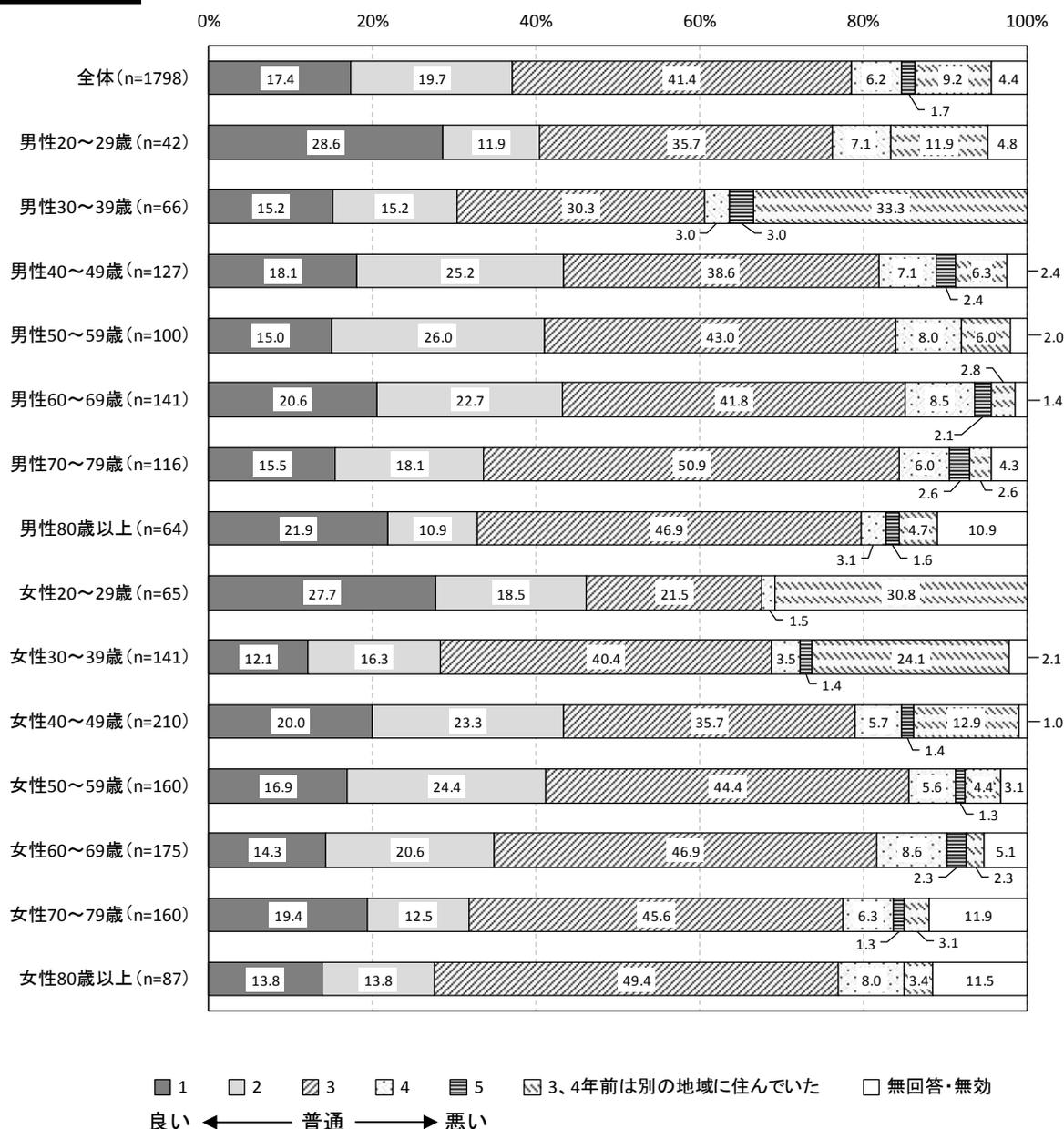
現在住んでいる地域の治安について



- 3、4年前の治安について、年齢・性別に見る回答の割合は、70歳代以上で男女ともに「1」または「2」の「良い」とする割合がやや低い傾向にあり、若い世代においては「3、4年前は別の地域に住んでいた」とする割合が高い。
- 「1」または「2」とする割合が最も高いのは、男性では40歳代と60歳代でともに43.3%、女性では20歳代で46.2%となっている。

現在住んでいる地域の治安について

3、4年前



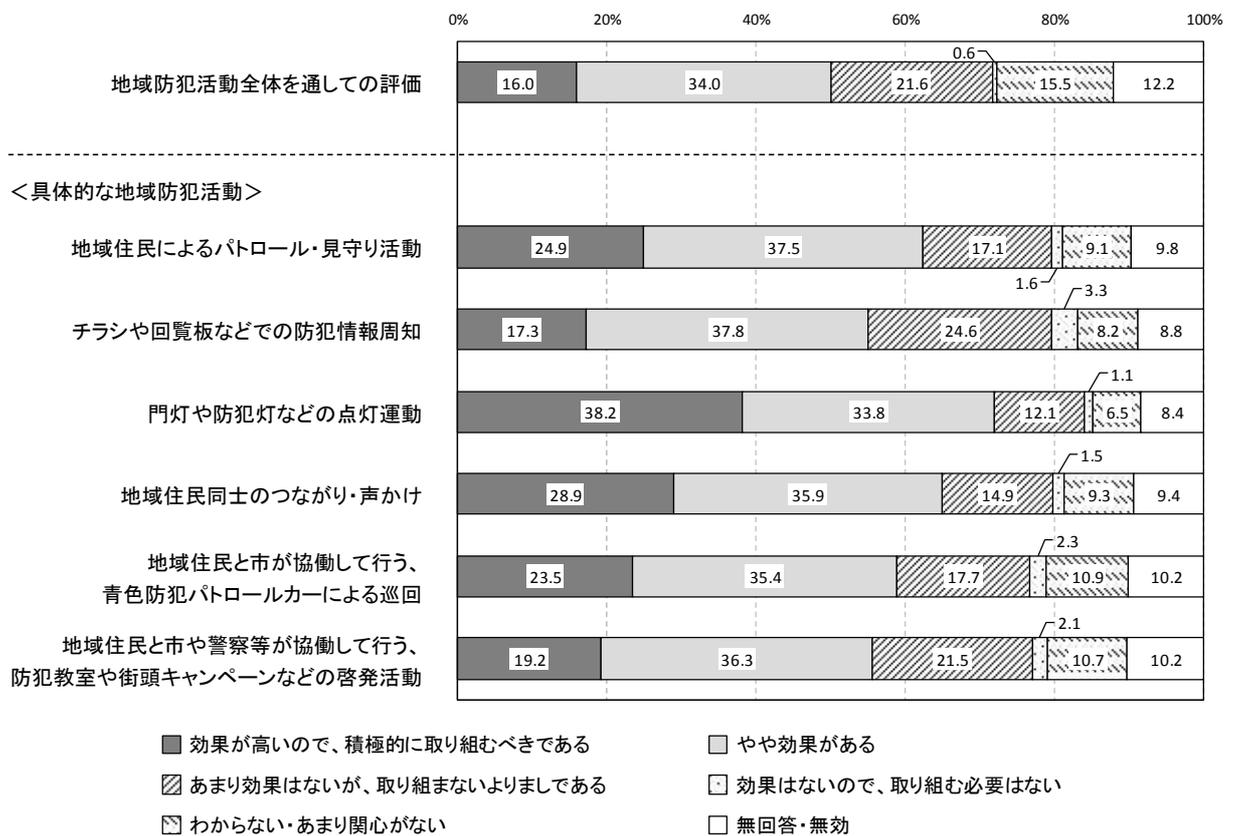
問 15 あなたは地域防犯活動に対して、全体を通してどのように感じますか。
 また、以下の具体的な地域防犯活動ア.～カ.について、どのように感じますか。それぞれについて、1から5のあてはまるものに○をつけてください。

地域防犯活動に「効果がある」とする人は約 50%。効果が高いと感じられている地域防犯活動は「門灯や防犯灯などの点灯運動」が最も多い。

- 地域防犯活動について、16.0%が「効果が高いので、積極的に取り組むべきである」、34.0%が「やや効果がある」としており、合計 50.0%が「効果がある」としている。
- 「効果が高いので、積極的に取り組むべきである」と最も多く回答された具体的な地域防犯活動は「門灯や防犯灯などの点灯運動」で 38.2%、次いで「地域住民同士のつながり・声かけ」が 28.9%となっている。

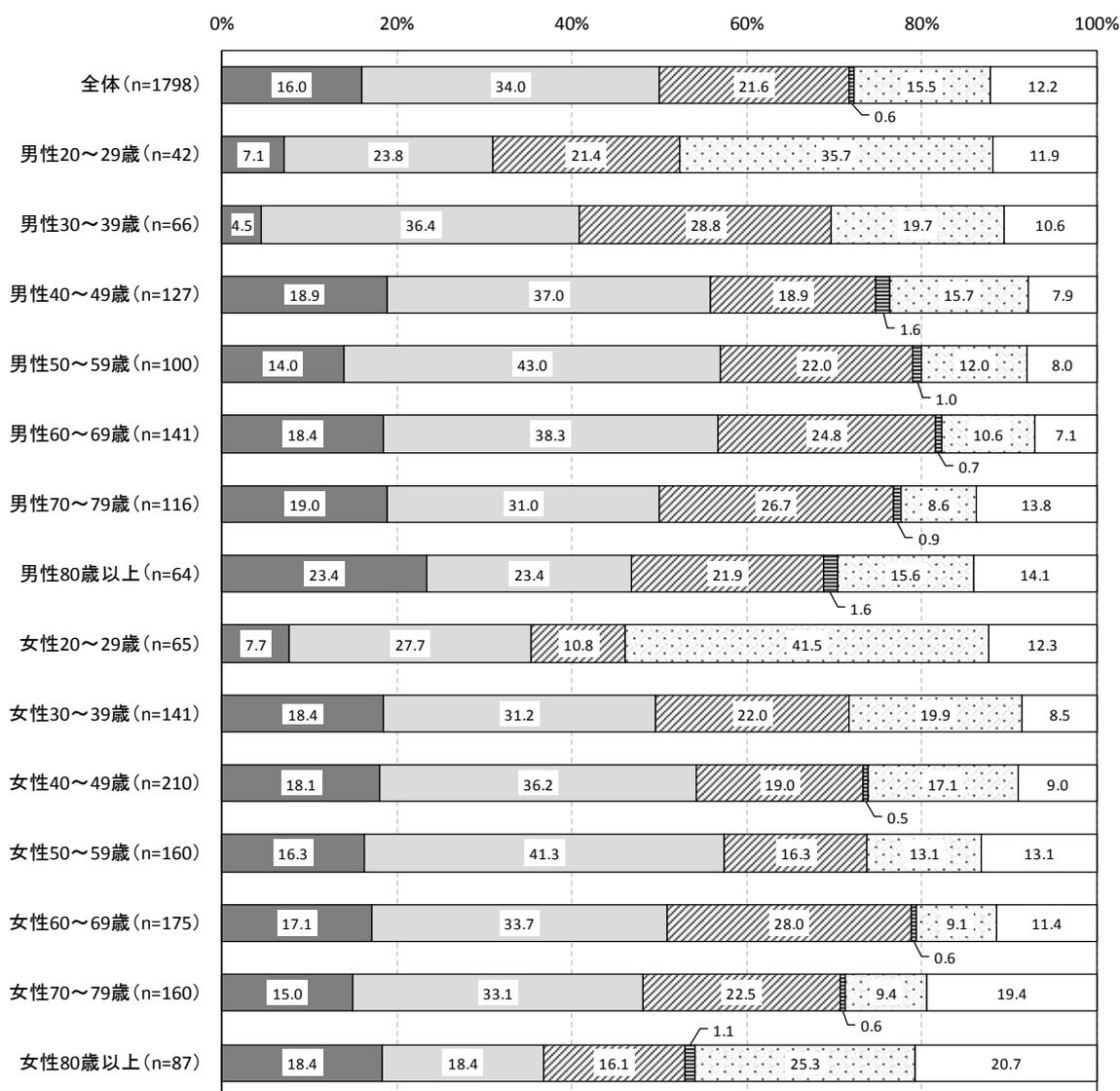
地域防犯活動に対してどのように感じるか

(n=1,798)



- ・ 地域防犯活動全体を通しての評価について、年齢・性別に見る回答の割合は、男女共に 40～60 歳代で「効果が高いので、積極的に取り組むべきである」および「やや効果がある」と答えた割合が高い傾向にある。
- ・ 「わからない・あまり関心がない」と回答する割合が最も高いのは、20 歳代の男女であり、男性は 35.7%、女性は 41.5%となっている。

地域防犯活動全体を通しての評価

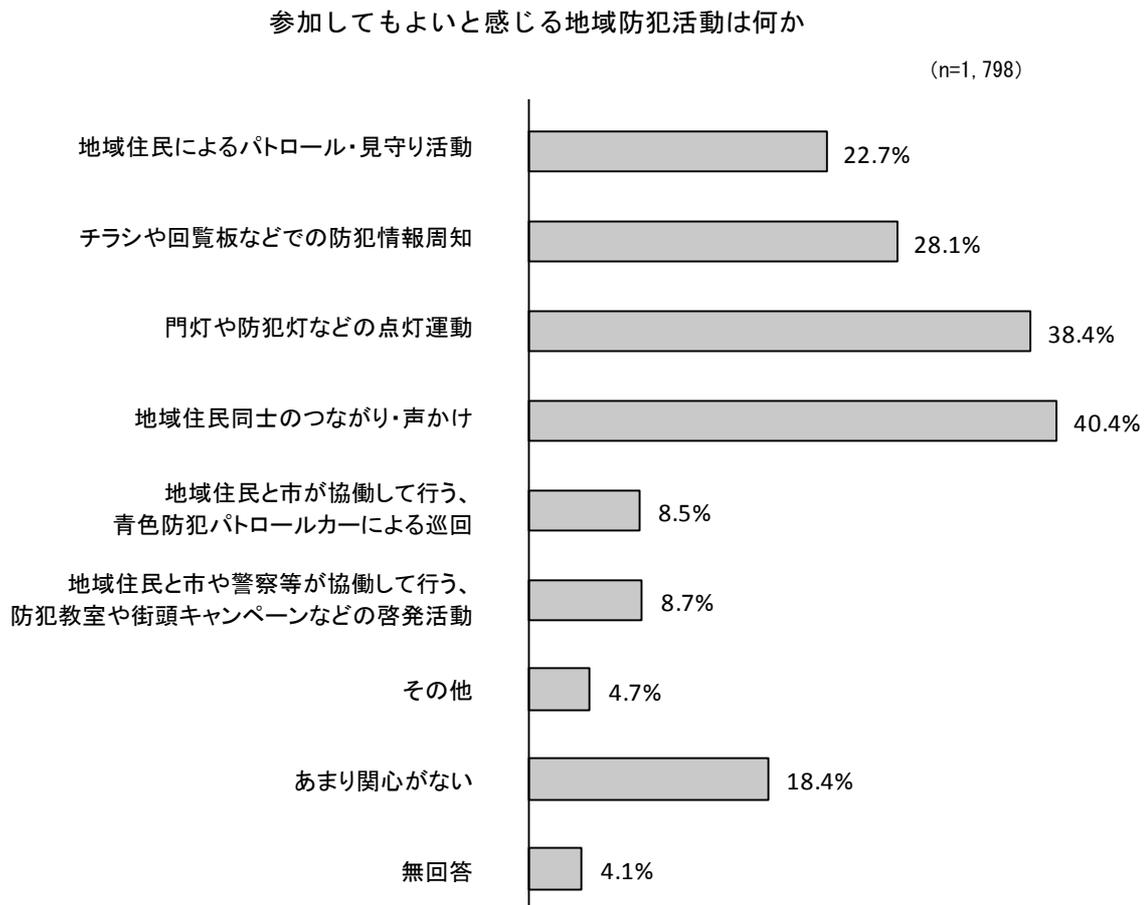


- 効果が高いので、積極的に取り組むべきである
- やや効果がある
- ▨ あまり効果はないが、取り組まないよりましである
- ▩ 効果はないので、取り組む必要はない
- わからない・あまり関心がない
- 無回答・無効

問 16 あなたが参加してもよいと感じる地域防犯活動は何ですか。
(あてはまるものをすべて選んで○)

参加してもよい地域防犯活動は、「地域住民同士のつながり・声かけ」が最も多い。

- ・ 参加してもよいと感じる地域防犯活動について、最も多い回答は、「地域住民同士のつながり・声かけ」で40.4%、次いで「門灯や防犯灯などの点灯運動」が38.4%となっている。



- ・ 年齢・性別に見る回答の割合は、「地域住民同士のつながり・声かけ」および「門灯や防犯灯などの点灯運動」はどの年齢・性別でも高い傾向にある。
- ・ 「あまり関心がない」と回答した割合は男女共に 20 歳代が最も高く、男性は 47.6%、女性は 35.4%となっている。

(単位：%)

	地域住民によるパトロール・見守り活動	チラシや回覧板などでの防犯情報周知	門灯や防犯灯などの点灯運動	地域住民同士のつながり・声かけ	青色防犯パトロールカーによる巡回	地域住民と市が協働して行う、 防犯教室や街頭キャンペーンなどの啓発活動	その他	あまり関心がない	無回答
全体(n=1,798)	22.7	28.1	38.4	40.4	8.5	8.7	4.7	18.4	4.1
男性 20～29 歳(n=42)	<u>9.5</u>	19.0	<u>19.0</u>	<u>23.8</u>	7.1	2.4	2.4	47.6	2.4
男性 30～39 歳(n=66)	27.3	21.2	<u>27.3</u>	33.3	9.1	4.5	0.0	31.8	1.5
男性 40～49 歳(n=127)	26.0	26.8	33.9	39.4	6.3	6.3	3.9	23.6	0.0
男性 50～59 歳(n=100)	23.0	23.0	29.0	33.0	9.0	12.0	3.0	23.0	4.0
男性 60～69 歳(n=141)	22.7	24.1	40.4	39.7	9.2	19.1	4.3	20.6	2.8
男性 70～79 歳(n=116)	34.5	27.6	38.8	39.7	14.7	8.6	1.7	12.9	6.9
男性 80 歳以上(n=64)	17.2	32.8	<u>28.1</u>	40.6	10.9	10.9	15.6	9.4	10.9
女性 20～29 歳(n=65)	<u>10.8</u>	24.6	36.9	<u>27.7</u>	9.2	1.5	1.5	35.4	0.0
女性 30～39 歳(n=141)	25.5	29.8	35.5	39.0	5.0	6.4	2.1	19.1	0.0
女性 40～49 歳(n=210)	30.5	31.4	42.4	39.5	6.7	7.1	2.9	15.7	1.9
女性 50～59 歳(n=160)	23.8	38.1	43.1	45.0	6.9	11.9	3.8	11.9	3.8
女性 60～69 歳(n=175)	22.3	36.0	49.1	50.9	8.6	6.9	5.7	10.9	5.1
女性 70～79 歳(n=160)	18.1	28.8	41.9	46.3	13.1	8.8	8.8	12.5	6.9
女性 80 歳以上(n=87)	<u>10.3</u>	<u>13.8</u>	36.8	41.4	4.6	8.0	10.3	19.5	12.6

※表内の網掛け部分は、全体を 10 ポイント以上上回るものを示している。

表内の下線斜体部分は、全体を 10 ポイント以上下回るものを示している。

施策に向けての一言 <地域防犯活動について>

住民主導の地域防犯活動は近年複数の自治体で注目されている。問 14 は現在住んでいる地域の治安に関する回答者の認知を尋ねている。最も多い回答は「普通」の 44.9%だが、それよりも良い側に評価している回答も 40%を超えており、総じて治安に対する評価は高いように思われる。また問 14 では 3、4 年前の治安についても尋ねているが、大きな変化はない。ただし回答者のうち 9.2%は 3、4 年前には別の地域に住んでいたと答えている。この回答を世代別にみると、男女とも 20 代において治安が良いと感じる割合が高い。

問 15 は具体的な地域防犯活動への評価を尋ねている。最も多くの回答者によって「効果が高いので、積極的に取り組むべき」と考えられているのは、「門灯や防犯灯などの点灯運動」で 38.2%の回答者がこれを選んでいる。これを「やや効果がある」として選択している回答者は 33.8%おり、合わせると回答者の 7 割以上がこの活動を効果あるものとみなしていることがわかる。これに次ぐのは「地域住民同士のつながり・声かけ」で、「効果が高いので、積極的に取り組むべき」が 28.9%、「やや効果がある」が 35.9%の回答者に選ばれている。逆に最も評価されていない活動は「チラシや回覧板などでの防犯情報周知」であるが、それでも「効果が高いので、積極的に取り組むべき」が 17.3%、「やや効果がある」が 37.8%の回答者に選ばれており、半数以上が効果を認めている。

ここで興味深いのは「地域防犯活動全体を通しての評価」において「効果が高いので、積極的に取り組むべき」が 16.0%、「やや効果がある」が 34.0%と、「チラシや回覧板などでの防犯情報周知」よりも低評価となっていることである。具体的な活動を先に尋ねてから全体の評価を尋ねていたら、全体としての評価もより高くなっていた可能性がある。

「地域防犯活動全体を通しての評価」を性別・世代別に確認すると、20 代男女において評価が低く、その分「わからない・あまり関心がない」「無回答」が多いことがわかる。このことは「地域防犯活動」自体についての認知が若年層において低い可能性を示唆するものと思われる。

問 16 は「参加しても良いと感じる地域防犯活動」を尋ねている。最も多く選ばれているのは「地域住民同士のつながり・声かけ」で 40.4%、次いで「門灯や防犯灯などの点灯運動」が 38.4%となっている。ここを世代別に見ると、20 代、30 代の男性および 20 代の女性において「あまり関心がない」という回答の割合が明白に高いことがわかる。問 14 の回答において若年層が相対的に治安に対する評価が高いことと関連している可能性があるが、地域防犯活動をさらに拡げるためにはこの層にリーチすることを検討すべきであろう。

(関西学院大学 山田真裕)